

今回、生徒と随行し、5、6年冬のコレクションした山内最子館が楽し。箱を開け、中かみにしていたのが、8、9が出てきたらびや、か日午後を訪れた刺しゅうな作品に、2人は「すう工房「メゾン・ルサージュ」の恩をのんだ。1シーユ。ルサージュ。パールやスパンコーはシャネルやディオールなどが縫い付けられ、ルなら有名な顧客からた生地は玉石のよう。仕事の依頼を受け、と裏側までしっかり確認もにコレクションの作、吉川さん小田桐品を作り上げていると、さんも「すう」でこて言っても過言ではない。見せたい」「一日中プロの職人集団だ。いられる」と圧倒され

F甲子園 パリ研修

…下…

■ た様子。アレクセルさ
2人を迎えたタツンに「あれが職人が仕事
フのキャロル・アレの一端を披露すると、
1グルさんがまず案内「メルシー」を連発
してくれたのは、8、5として目を輝かせた。
8年、前身のメゾン・素直に感動する2人
ミシヨネから手掛けたアレクセルさんだけ
全サンプルが収められて、職人たちが笑
ているという部屋、約。部屋を出る時に
5万5000点が保管は「アリガト」とい
ざれているという。日本語も「ほれ、通訳
「好きな箱を一つ選として随行した千原さ
んで」と言われて2人は「普通は邪魔にな
が指さしたのは196るから嫌がられるのに

芸術の本物を受けた刺激



刺しゅう工房に感動

。若い人っていいわの都合で実現しなかつた。素材
ね、とみんな喜んでくたが、10日にはユモとかつくりも面白かつ
れた。めつたにない。トドバリの学生に、また、小田桐さん。
とでこちらもつれしくるファッションショー
なつたとはほほ笑んだ。を最前列で観覧。ト。自由行動の時間も精
当初予定されていたうやうやして型紙を起す。力的に動き回り、小田
パリ・コレ見学は日程。んたろうと思つて作品が、桐さんは布屋で生地を
「コストや機能を優先し

たデザインが多いが、
フランスは違つ。2人
とも本物の芸術のすこ
さに触れ、いろいろと
勉強になったと思つ。
いいものを作るための
近道を通つたような感
じ」と研修を総括し
た。

「メゾン・ルサージュ」で、部屋いっぱい保管された
リボンや糸などの素材に目を輝かせる2人
6泊7日(機内泊込
み)の日程を終えた2
人は「来て本当によか
つた。デッサンとか、
もつともつ勉強した
い」(吉川さん)。「パ
リを見るのと見ないの
どでは全然違つ。いつ
かまたここに来た」
かまたここに来た」
(小田桐さん)。今後
の勉強への意欲を新た
にした旅になった。